

2017年(平成29年)6月1日(木)



三島梅花藻の里で清掃する曾佳琦さん(中央)と張琬珮さん(右)＝グラウンドワーク三島提供

# 三島のノウハウ台湾へ

## 社区大学の2人 環境再生など学ぶ

源兵衛川をはじめとする環境再生やまちづくりの手法を三島市のNPO法人グラウンドワーク三島(GW三島)から学ぼうと、台湾の生涯学習の拠点である「社区大学」(コミュニティーカレッジ)の女性スタッフ2人が4月26日から約1カ月間、GW三島で研修を受けた。5月22日に市内で研修成果報告会が開かれ、2人は「環境は変えられる。使命や目標が大切と分かった。得たものを台湾で生かしたい」などと語った。

台湾には社区大学が83校あり約40万人が登録しているという。GW三島は昨年9月、台南社区大学と環境交流

協定を締結し、渡辺豊博専務理事がアドバイザーに就任している。研修を受けた2人は、社区大学の全国組織スタッフで台湾大出身の張琬珮さんと、ボランティアスタッフで2児の母の曾佳琦さん。源兵衛川・三島梅花藻の里での清掃活動▽公園の植え込みの枝切り▽水生生物調査▽ニンジンの種まき――などを体験し、GW三島の組織運営も学んだ。

報告会で曾さんは「年齢も団体も異なる人が同じゴールを目指すプラットフォームを作ったことがGW三島の素晴らしさ。三島の人々は自然再生の実践に価値を見いだしている」と語り、張さんは

「環境改善やまちづくりは長期的な活動が必ず必要と感じた」などと話した。

【石川宏】  
した。渡辺専務理事は「三島で学んだ環境再生や地域振興のノウハウは台湾で生かせると思う。目に見える、形になる国際交流になると期待している」と話した。



研修の成果などを話す曾佳琦さん(中央)＝三島市本町の三島市民活動センターで